

Title	米国医薬品産業の構造分析と競争戦略
Sub Title	
Author	井戸恒夫(Do, Tsuneo) 青井倫一
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1990
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1990年度経営学 第736号 可能
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001990-0736">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001990-0736</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名	井戸 恒夫 (エーザイ株式会社)	主査	青井 倫一
		副査	嶋口 充輝 田中 滋
所属	青井 倫一 研究室		

## 米 国 医 薬 品 産 業 の 構 造 分 析 と 競 争 戦 略

本研究では、高い収益性をあげる米国医薬品産業の構造をM. E ポーターのいう5つの競争要因 ①新規参入の脅威 ②既存競争業者間の敵対関係の強さ ③買い手の交渉力 ④代替製品からの圧力 ⑤売り手の交渉力 について分析し、競争優位に立つためのクリティカルファクターとしては、製品差別化、パテント、販売力が意味を持つものであるという結論に至った。分析結果から、当産業収益性を説明するファクターとしてR&D比率、プロパー数、トップ9疾患別市場シェア、を選び重回帰分析を行った。その結果、プロパー数は、正の相関を示したものの、R&Dは、負の相関を示した。必要なR&D費のクリティカルマスがあるとすればそれ以上の投資は、利益圧迫要因になるのであろう。確かにR&Dは、規模の経済は効かないし、組織の肥大化は、効率性の面でマイナスとなるということを指摘する学者もいるが、今後の研究に期待したい。当産業の疾患別サブマーケットにおける相互依存的寡占構造は、当産業の高収益性を説明するものであるが、一方では、熾烈な製品差別化競争による製品ライフサイクルの短縮化、R&D費の膨大化、医療費抑制策、オフパテント後のジェネリック薬とコスト競争等、現時点での業界のトレンド変化は、当医薬品産業の収益性に大きなインパクトを与えるものであることを指摘した。

今後の医薬品需要の構造変化は、「コスト有効性」を核としたものとなり、医薬品産業は、受益者=患者であることを念頭に、新しい商品開発、サービスを志向すべきであろう。